

大正五年四月六日第三種郵便物認可 昭和十二年五月廿五日印刷納本(毎月一回一日發行)

# 哲 學 研 究

第 二 十 二 卷 第 六 册

第 二 百 五 十 五 號

昭 和 二 十 年 六 月 十 日 發 行



美の深さ……………文學博士 植田壽藏

カントの先天總合判斷の最高原則について(承前)

……………文學士 大西友太

宗教的自覺……………文學士 片山正直

自然數論の無矛盾性證明…文學士 近藤洋逸

— G・ゲンツェンの業績 —

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內 部

京 都 哲 學 會

## 京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究会ヲ開ク
- 一、毎年公開講演會ヲ開ク
- 一、毎月一回哲學研究ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

### 委員

文學博士																			
天野	岩井	植田	白井	小島	木村	九鬼	田邊	中西	野上	羽溪	波多	服部	久松	本田	山内	天野	岩井	植田	白井
貞祐	二勝	壽藏	二尚	祐馬	素衛	周造	正元	正治	啓治	俊夫	了諦	精一	英次	義真	得立	天野	岩井	植田	白井

# 前 號 目 次

實踐と對象認識(承前)

—— 歴史的世界に於ての認識の立場 ——

文學博士 西田幾多郎

カントの歴史觀……………文學士 内田文雄

プラトーンに於ける數學と形相論との關係

……………オットー・トエブリッツ  
長澤信壽譯



松村克己 著 (田邊 元 監修)  
 (西哲叢書 第五册)

# アウグステイヌス

各 價 一・三〇 送 一・二四  
 約 三三〇頁 口繪 一葉

## 新 刊

現代に於ける思想の無力、思想の貧困と云ふ事が屢々語られる。併し事實は正しくその反對である。思想は過剰であり、人々は思想の力を信じてゐるが故にこの嘆きがあるのである。問題は生命を賭して思想を生きたる人がない事である。眞實を語るのみではなく之を身を以つて支へ證する人の少い事である。千五百年の昔、ロマ帝國の没落を眼前にしつつ新しき時代の産みの苦しみを親しく身に負うて悩み思索した人、中世の歴史を叫び出した聖アウグステイヌスは、右の様な意味に於て最も深く歴史と永遠との底を潜つて眞理を生きた一個の天才と云へやう。その取上げた問題は或は時代の制約を受けて現代のそれとは異るとするも、この人の巨大な魂の氣息を聞く事は、現代に生きる吾々にとつて多くの暗示を含んでゐるに違ひない。

本書は我が國に於てその名の語らるる事屢々にしてその文獻に乏しきアウグステイヌスについての全般的な最初の叙述である。

第一章 アウグステイヌスの生涯 一、出生 二、生立ち 三、カルタゴ遊學 四、第一の轉機—眞理への愛 五、タガステ時代 六、カルタゴ時代 七、懷疑—海を超えて 八、ロマよりミラノへ 九、明けの星 十、夜明け前—肉慾の繩目 十一、回心の直接動因 十二、ミラノの闘—回心 十三、カシキアコム時代 十四、受洗の後 十五、アフリカ歸還 十六、ヒッポの説教者 十七、ヒッポの司教—社會の指導者 十八、ドナテイスト論争 十九、ベラギウス論争 二十、アウグステイヌスの諸書について 第二章 アウグステイヌスの哲學 第三章 アウグステイヌス哲學の諸問題 一、幸福 二、確實性 三、感覺 四、徹知的認識 五、徹知的認識の起源 六、光の説と内なる教師 七、魂の本性 八、神の認識 九、信仰と認識 十、愛の倫理 十一、惡の問題 十二、自由意志と罪 十三、恩寵と意志の自由 十四、神と世界 十五、歴史的社會 文獻

- 既刊
- ★ヘーゲル 高山岩男著 ★ソクラテス 後藤孝弟著 ★ギンケルマン 井島 勉著
  - ★フツセル 下程勇吉著 ★シエリンガ 勝田守一著 ★ルソー 烏 芳夫著
  - ★スピノザ 笠 實著 ★プラトン 長澤信壽著 ★メーヌ・ド・ピラン 澤瀉久敬著
  - ★マクス・シェーラー 田中 照著

(大正五年四月六日)昭和十二年五月廿五日印刷納本(毎月一回)  
 (第三種郵便物認可)昭和十二年六月十日發行

哲學研究 第二百五十五號 定價金四拾錢 郵税金壹錢

東京市都町丸太町 替振 都京一三五九番  
 東京市神田駿河臺 替振 東京三五九〇番

弘文堂

